

# 大学生が求めるパソコンについての調査

河合 郁也<sup>1</sup>・佐藤 亮<sup>2</sup>・寺内 明日香<sup>3</sup>・水村 真希<sup>4</sup>・森 一将<sup>5</sup>

<sup>1</sup>非会員 文教大学 経営学部 経営学科  
E-mail:b9r11051@bunkyo.ac.jp

<sup>2</sup>非会員 文教大学 経営学部 経営学科  
E-mail:b9r11077@bunkyo.ac.jp

<sup>3</sup>非会員 文教大学 経営学部 経営学科  
E-mail:b9r11108@bunkyo.ac.jp

<sup>4</sup>非会員 文教大学 経営学部 経営学科  
E-mail:b9r11152@bunkyo.ac.jp

<sup>5</sup>正会員 文教大学 経営学部  
E-mail:mori@bunkyo.ac.jp

本研究では、自分自身が使用しているパソコンについての質問をいくつか行い、コロナ前後の学生の求めるパソコンのニーズが変化したかアンケートにより明らかにする。調査対象は現在の大学1年生～4年生である。新型コロナウイルス感染症の影響により、学生生活に大きな変化があった。その中でも大学の授業スタイルは感染予防の観点から対面授業からオンライン授業が主流となり、オンライン授業での問題やパソコンのスペックに問題が浮上した。そこで、調査内容により、大学生の求めるパソコンのニーズを分析する。このことは、パソコンに求める要素が増え、コロナ後の大学生の求めるパソコンがハイスペックに変化したことが分かる。それによって、コロナ禍を過ごす大学生の新しいパソコンのニーズを知り、顧客満足度の向上や新たな商機の発見に生かすことができると考える。

**Key Words : オンライン授業、ニーズ、パソコン、学習環境**

## 1. はじめに

本研究の調査対象は現在の大学1年生から4年生である。自分自身が使用しているパソコンについての質問をいくつか行い、コロナ前後の学生の求めるパソコンのニーズが変化したか明らかにする。

<sup>1</sup>文部科学省は2021年5月25日、「新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査」の結果を公表した。2020年度後期はオンライン授業がほとんど・すべてだったと回答した学生は全体の6割。オンライン授業の満足度は、不満20.6%に対し、満足56.9%と、満足に感じる割合のほうが多かった。国や学校等への意見・要望では、「コロナ禍以前に戻すことなく、新しい大学の在り方を考えてほしい」「教員に対するオンライン授業のガイドラインの配布や講習会等の実施を進め、授業の質向上に取り組んでほしい」「授業料が高く、

オンライン授業とするのであれば、学費を減額してほしい」「オンライン・SNS上の交流のみでは不十分」等、さまざまな声が寄せられている。

また、<sup>2</sup>ポータルサイト「My Cloud (マイクラウド)」でのWebアンケートを集計した結果(調査期間は2020年5月20日～5月26日、回答数は7161)、「テレワーク実施に購入したものはPC本体が1位で、マイク/ヘッドセット、Wi-Fi/ルーターなどネット環境の増強を行ったという回答が多く得られている。この結果から、パソコンに求める要素が増え、ニーズが変化しているのではないだろうか。

目まぐるしく学習環境が変化したことにより大学生はどのようなパソコンを求めようになったのか。パソコンに触れる機会が多くなったからこそ、より具体的に自分が欲しいパソコンが思い浮かぶようになったのではない

だろうかと考えている。新型コロナウイルス終息後の大学の在り方がどのようになるかはわからないが、大学生とパソコンの関係は切っても切り離せないものだろう。つまり、学生の新しいパソコンのニーズを知ることにより、顧客満足度の向上や新たな商機の発見にも生かせると考える。

## 2. 実験の概要と手続き

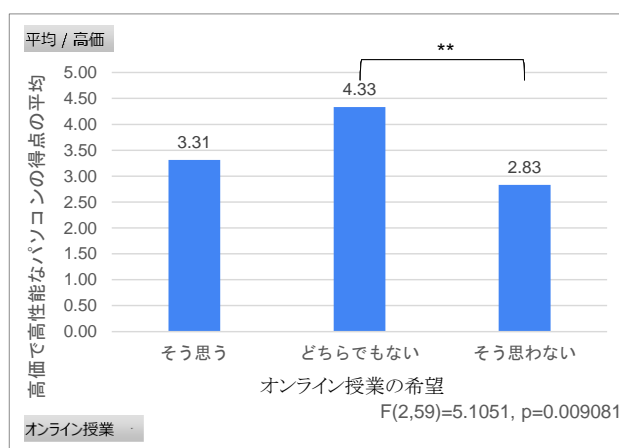
2021年11月15日～11月30日に大学生63名を対象に、パソコン購入時の負担に関する調査(2項)、パソコンの使用用途に関する調査(3項)、オンライン授業に関する調査(2項)、パソコンに求める性能に関する調査(4項)を実施した。このアンケートは、パソコン購入時の負担に関する調査、パソコンの使用用途に関する調査、パソコンに求める性能に関する調査の9項を5件法で行い、オンライン授業に関する調査のうち一つを5件法、もう一つ3件法によるアンケートとした。

## 3. 分析結果

分析した結果、有意が見られた3つの分析について考察を記す。

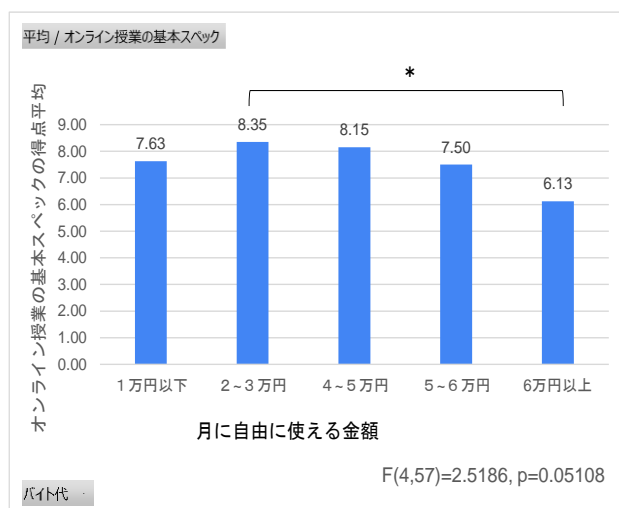
図1では高価で高性能なパソコンのニーズを得点化した。これをオンライン授業(思う・どちらでもない・思わない)の希望に対して、高価で高性能なパソコンのニーズについて分析した。その結果、高価で高性能なパソコンのニーズはオンライン授業の希望に対して有意差が見られた。 $(F(2,59)=5.1051, p=0.009081)$ 次に、有意差が見られたためボンフェローニの方法を用い、多重比較を行った。分析結果は、オンライン授業をこれからも受けたいと「思わない」と「どちらでもない」の項目に有意差が見られた。

この分析結果から言えることは、オンライン授業をこれからも受けたいと思っていない人は高性能で高価なパソコンを求めていることだ。つまり、オンライン授業を受けたいと思っている人は、どちらでもないと回答した人より低価格のパソコンを求めていると考えられる。また、オンライン授業をこれからも受けたいと思っている人は、高価で高性能なパソコンではなく、安くても必要な性能があればいいと考えている人が多いと考察する。



【図1】 オンライン授業の希望と高価で高性能なパソコンのニーズ

次にオンライン授業の基本スペック(バッテリーのもちがいいパソコンを必要としているか+カメラ・マイクが高性能なパソコンを必要としているか)と1ヶ月にアルバイト代のうち自由に使うことのできる金額、この2つを用いて検証した。まず、この2つを用いて分散分析を行った時 $(F(4,57)=2.5186, p=0.05108)$ と有意傾向となった。そこで次に多重比較を行った時、1ヶ月にアルバイト代のうち自由に使うことのできる金額が「2~3万円」の人と「6万円以上」の人の間に0.040と有意差を確認することが出来た。結果の図2を見てみるとパソコンのスペックにアルバイト代が影響していることが分かる。この図から、自由に使えるお金が多い人は、バッテリーとカメラ・マイクのニーズが低いという結果を得ることが出来た。



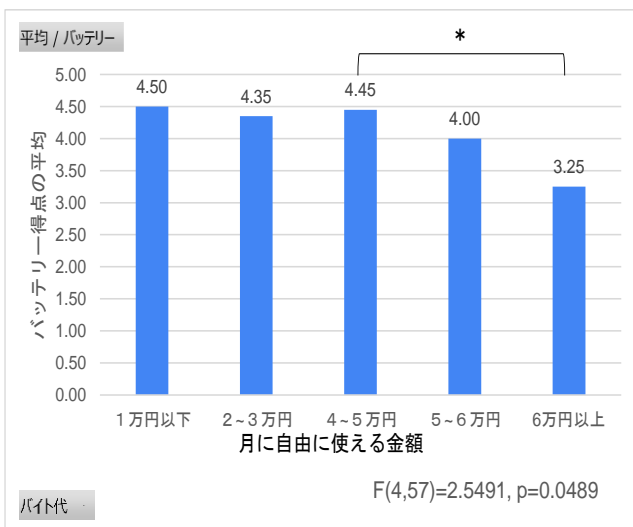
【図2】 月に自由に使える金額ごとのオンライン授業の基本スペックの得点平均

最後に、バッテリーのもちがいいパソコンを必要としているかと1ヶ月にアルバイト代のうち自由に使うこと

できる金額、この2つを用いて検証した。

まず、この2つを用いて多重比較を行った時アルバイト代のうち自由に使うことのできる金額が「4-5万円」の人と「6万円以上」の人の間に0.05と有意差を確認することが出来た。そこで次に分散分析を行った時、 $(F(4,57)=2.5491, p=0.0489)$ と有意差がでた。

結果の図3を見てみると、バッテリーのもちがアルバイト代に影響していることが分かる。この図から、自由に使えるお金が少ない人ほど、バッテリーのもちが良いパソコンを求めているという結果を得ることが出来た。また自由に使えるお金が多い人は、購買の選択肢が広がるため、パソコンの優先順位が低くなるといえるだろう。



【図3】月に自由に使える金額ごとのバッテリー得点の平均

#### 4. 結論

本研究では、大学生を対象とし、値段にとらわれないため、ブランドではなく性能重視のパソコン選びである傾向やお金に余裕があるとパソコンに付加機能を求める傾向、反対に、お金に余裕がないと機能ではなくバッテリーの持ちが良いパソコンを選択する傾向にあることが明らかになった。これは、コロナ渦でオンライン授業が普及し、バイトなどでお金に余裕があるとパソコンにマイクやカメラが高性能であることを求め、お金に余裕がないとオンライン授業でパソコンの稼動時間が伸びたため、バッテリーが長持ちであるパソコンを求めるようになった。このことから、コロナ前後の大学生の求めるパソコンがハイスペックであることが分かる。これらを知ることによって、学生の新しいパソコンのニーズを知り、顧客満足度の向上や新たな商機の発見に生かせると思う。

#### 5. 参考文献

[https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf)

<sup>1</sup>新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査 (結果)

<https://www.fujitsu.com/jp/group/fccl/about/re-sources/news/press-releases/2020/0907-2.html>

<sup>2</sup>FCCL、コロナ下での行動と消費の変化についての調査を実施

2018年?月?日 受稿

2018年?月?日 受理